

第26回宇宙開発委員会（定例会議）

議 事 次 第

1. 日時 昭和51年10月20日(火) 午後2時～4時
2. 場所 宇宙開発委員会会議室
3. 議題

- 国際海事衛星システム（インマルサット）の設立に
関する第3回政府間会議の概要について（報告）
（説明者 郵政省電波監理局電気通信参事官

日高英実）

4. 資料

- 委26-1 第25回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨
- 委26-2 国際海事衛星システム（インマルサット）の
設立に関する第3回政府間会議の概要について

- （参考配布） ○ 昭和51年度8～9月期における
ロケット打上げ結果の評価について

第25回宇宙開発委員会（定例会議）

議事要旨

1. 日時 昭和51年10月6日(水) 午後2時～4時
2. 場所 宇宙開発委員会会議室
3. 議題
 - (1) 昭和51年度8～9月期におけるロケット打上げ結果について（報告）
 - (2) 昭和51年度8～9月期におけるロケット打上げ結果の評価について
4. 資料
 - 委25-1 第24回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨
 - 委25-2 L-4S0-4号機の実験報告
 - 委25-3 TT-210型ロケット3号機打上げ結果の概要
 - 委25-4 昭和51年度8～9月期におけるロケット打上げ結果の評価について案

5. 出席者

宇宙開発委員会委員長代理	網 島 毅
" "	吉 識 雅 夫
" "	八 藤 東 福
" "	斎 藤 成 文
説明者	
東京大学宇宙航空研究所教授	野 村 民 也
" " "	林 友 直

(1)

宇宙開発事業団理事

高 田 茂 俊

" 打上管制部長

村 尾 忠 義

関係省庁職員等

科学技術事務次官

久良知 章 吾

科学技術庁研究調整局長

園 山 重 道

" 長官官房参事官

佐 伯 宗 治

気象庁総務部長

宇津木 巖

(代理：高谷)

海上保安庁総務部長

鈴 木 登

(" = 黒川)

郵政省電波監理局審議官

門 田 博

(" : 寛)

建設省大臣官房技術参事官

細 川 弥 重

(" : 渡辺)

東京大学宇宙航空研究所

高 瀬 修

宇宙開発事業団

平 野 睦 弘

"

林 英之介

事務局

科学技術庁研究調整局宇宙企画課長

伊 藤 栄 一

" 宇宙国際課長

三 浦 信 他

6. 議事要旨

- (1) 前回議事要旨について

第24回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨が確認された。

(2)

(2) 昭和51年度8～9月期におけるロケット打上げ結果について(報告)

① 東京大学宇宙航空研究所

東京大学宇宙航空研究所の野村民也及び林友直両教授から資料委25-2に基づいて説明が行われたのち、以下の質疑応答が行われた。

吉識：ロールの原因となる外力は空気力のみか。

林：尾翼取付けのミスアライメントによる空気力がロールの主因である。SMRC作動中はロール角を 10° 以内に押えるように制御するが、作動終了後はナチュラル・スピンを行っている。

網島：SMRCは相当長く燃焼するのか。

野村：これは端面燃焼で、燃焼時間は約40秒である。

網島：前回問題となつた離脱コネクタを抜くときには、電源は自動的に切れるのか。

林：手動で行うが、手順書どおりに進めれば問題はない。また、電源が切れたことを表示するようにもなっている。

② 宇宙開発事業団

宇宙開発事業団の高田茂俊理事及び村尾忠義打上管制部長から資料委25-3に基づいて説明が行われたのち、以下の質疑応答が行われた。

網島：前回の打上げの時は停電という事態が発生したが、電源の故障について何か実験を行つたのか。

高田：今回の打上げは自家発電で行い、別に実験は行わなかつた。

網島：宇宙ヶ丘からランチヤがみえないと聞いているが、レーダの追尾上問題はないか。

高田：2回予備試験を行つているので、だいじょうぶと考えている。

網島：電波の伝わり方の季節による変化も調べた方がよい。

(3) 昭和51年度8～9月期におけるロケット打上げ結果の評価について

事務局から資料委25-4に基づいて説明が行われたのち、宇宙開発事業団が昭和51年度8～9月期に行つたロケットの打上げについては、今回特に技術部会に審議を付託する必要はないが、決定の表現等については委員長代理に一任され、技術部会への審議付託が決定された。

昭和51年度8～9月期におけるロケット
打上げ結果の評価について

昭和51年10月6日
宇宙開発委員会
決 定

昭和51年度8～9月期におけるロケット打上げ結果を評価するため、次により調査審議を行うものとする。

1. 東京大学宇宙航空研究所が行った「昭和51年度第1次観測ロケット実験」の結果（科学観測の結果を除く）を評価するために必要な技術的事項について調査審議を行う。

なお、宇宙開発事業団が昭和51年度8～9月期に行ったロケットの打上げについては、その目的等にかんがみ、今回は調査審議を行わない。

2. 1の調査審議は、技術部会において行い、昭和51年11月末までに終わることを目途とする。

IV. その他 (提案)

1. TDRSSの日本における利用計画についての提案

TDRSS (Tracking and Data Relay Satellite System) を完備するため TDRS (Tracking and Data Relay Satellite) 打上げ計画を提案する。

TDRSSはロケットの追跡管制, 人工衛星の追跡管制を全地球的規模で行うために必要なものであり(地上追跡網が極めて限定されているわが国の宇宙開発にとっては必要な設備), さらに, 人工衛星によって測定されたデータ, または, 人工衛星内において行われる種々の実験データを日本の中継局に集めるために, 本システムを利用する効果は極めて高い。

米国 NASAは, 1979年に2個のTDRSを打上げる計画であるが, 不足する追跡領域は地上網に頼るつもりと思われるので, わが国が1個または2個打上げてNASAとの共同利用することも十分に検討の余地がある。

打上げ時期は, 昭和57~59年にはN改1ロケットによって可能なものと考えられる。

2. 材料実験サウンディングロケットについての提案

(1) ロケット

K, JCR, L, M, Q'のペイロード部に

- ① 1軸安定テーブル
- ② 3軸安定テーブル
- ③ ペイロード部加速度場可変装置 ($10^{-5} \sim 0.2g$)
- ④ 回収装置

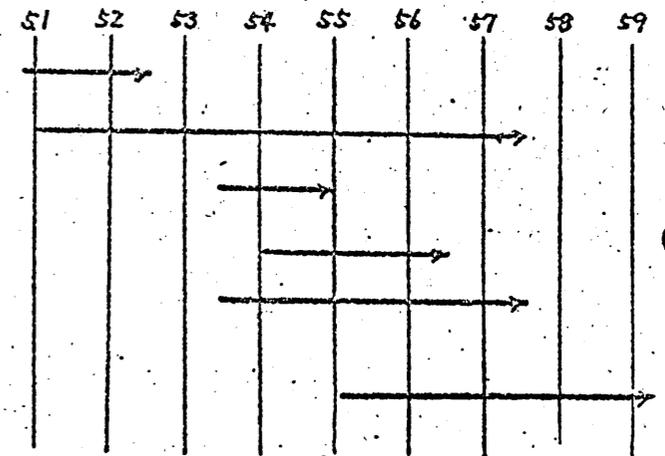
を取付ける。

(2) 目的

来るべきスペース・シャトル時代の宇宙材料実験計画に参加できる基礎技術を確保するとともに, 1980年代にわが国が計画すると思われる材料実験衛星計画の準備をする。

(3) スケジュール

- 搭載実験装置の整備
- 回収装置
- 1軸安定サウンディングロケット
- 3軸安定サウンディングロケット
- ペイロード部加速度場可変装置開発
- 材料実験用サウンディングロケット計画の全面的進捗



国際海事衛星システム（インマルサット）の設立に関する
第3回政府間会議の概要について

51.10.20

1 期間 昭和51年9月1日～9月3日

2 場所 ロンドン IMCO本部

3 出席国及び役員等

47か国、^{オブザーバ14名}5国際機関、10非政府団体 計約180名
(153名)

議長 R. M. Billington (イギリス)

4 会議概要

(1) 議事の経過

ア. 本件会議は、本年2月の第2回政府間会議で採択を
みながら各項目の審議・採択を目的として開催された

もので、主要議題は、

- (ア) 理事会における投票権の制限
- (イ) 留保
- (ウ) 用語

の三案に関する検討となっていたところ、米国から関税免除
に関する規定の修正、クウェートから同国の初期出資率の

増加について議題とするよう要請があり、追加された。

イ. 主要議題の三案及び米国の修正提案は、本年7月に行われた11か国非公式会合の線でごまかり、クウェートの新提案

についても若干の対立があったものの妥協に達し、条約及び運用協定ならびに附属書は全会一致で採択された。

ウ. 本会議は最終文書を作成し、9月30日午後3時出席47か国の代表がこれに署名し議事を終了した。

エ. 引き続き、条約および運用協定が署名のために開放され、直ちに12か国が署名を行った。

(2) 主な審議結果

ア. 理事会における投票権の制限

(ア) 投票権の上限を25%とする。

(イ) 25%を超える出資率については、その一部又は全部を他の署名当事者に売却することを申し出る事ができる。

引当られた金が 自由に売却できると、例外的に25%をこえられる。

イ. 留保

条約及び運用協定に留保を付すことは禁じられた。

ウ. 用語

用語に関する規定は設けず、機構ができたから使用する用語を定めることになった。

エ. 米国提案の関税免除規定

インターネット並み(実際の使用に供されるため打上げられる

衛星所らびにその構成部分およびその部分)に修正する
ことについて決定された。

オ. クラートの初期出資率の変更

前回合意した 0.05% を 1.5% に増加する提案は、
1.48% で承認された。

カ. 準備委員会

オ1回合合は、1977年1月10日から14日まで行った。
また、委員会への参加申し込み期限は12月1日とする
ことが決定された。